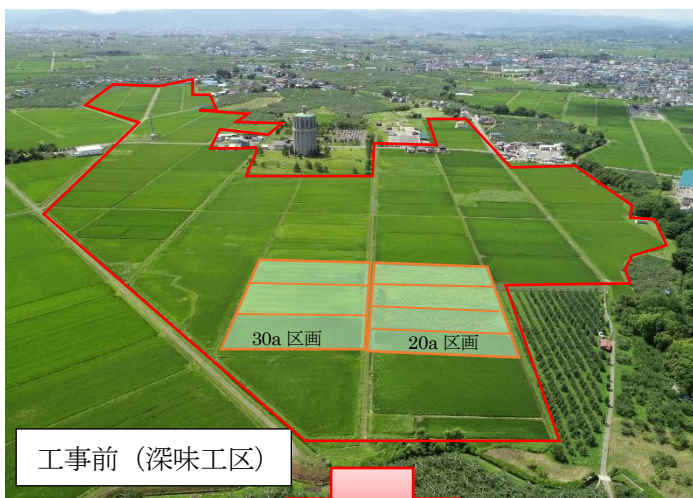
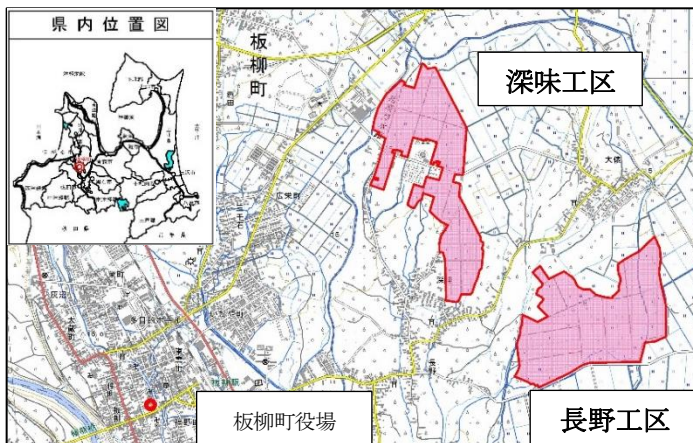


田んぼがダムで田んぼダム！？（西北地域県民局の巻 その49）

板柳町のまんなからへんで田んぼばおっきぐして、農作業をやりやすぐする区画整理工事をやってらんず。でっけーブルだのバックホウだので土ば動がして、さらに100m×100mくらいの区画をビシッと平さなるように均さねばまいねくて、そりゃ地球っこば相手さするんだもの、技術力が必要な大変だ工事だんだ。



深味長野地区の深味工区では令和4年9月から令和5年6月にかけて工事を行いました。

左の写真のとおり小さい(20～30a)田んぼを大きく(1ha程度)することで、移動時間の軽減など、農作業が行い易くなります。

またこの地区では、自動操舵トラクター等に使用する RTK-GNNS 基地局の整備や自動給水栓の設置などスマート農業の導入や田んぼダムの取組を行っています。

事業名：県営深味長野地区経営体育成基盤整備事業

場所：板柳町大字深味地内ほか

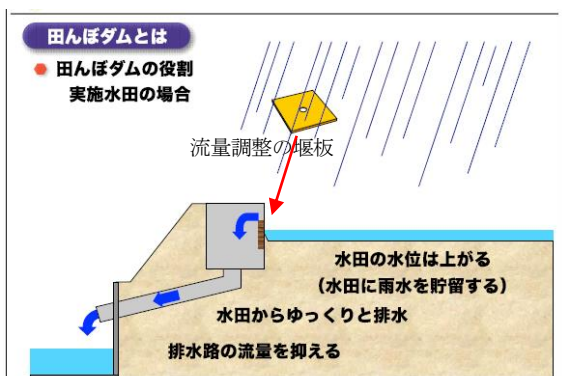
工期：令和2年度～令和7年度

受益面積：74.9ha

事業内容：区画整理工 74.9ha

暗渠排水工 73.5ha

支線用水路工 2.8km



「田んぼダム」ってなに？

おべ様：ねーねー、なぎちゃん「田んぼダム」って何か〜知ってる〜？

イタヤなぎ（以下なぎ）：知っちゃーよー、日本のすももだべ？（おべ様：それはソルダム）

なぎ：きどうせんし・・・（おべ様：それはガン〇ム）

おべ様：ぼーっと生きてんじゃねーよ。

なぎ：冗談だはんで、田んぼダムって

近年毎年のように大規模な水害が発生していて、ゲリラ豪雨など明らかに雨の降り方が変化しています。短時間で降った雨は一気に水路や河川に集まり、施設的能力を超えて氾濫が起きてしまいます。河川整備中心の施設能力増強には限界があるので、流域に関わるあらゆる関係者が協働して水害対策を行う「流域治水」の方針が示されました。農村部では、大雨時に雨水を水田に貯留し、時間をかけてゆっくりと排水路に流すことにより、排水路や河川の増水するピークが緩和され下流域の水害が減少することが注目され、流域に広がる水田を活用した水害抑制の取組が田んぼダムですよね。

雨を人さ例えれば、都会の方でよくある通勤電車のかちゃくちゃね混雑（洪水）を緩和するために時差出勤（この取組が田んぼダム）を導入して混み具合分散させるってイメージだべ。

おべ様：（えっいきなりマジ？ちょっこのままだと私の出番がなくなる）

ちょっとまって、なぎちゃんその話の前に昔から水田の持つ多面的機能として一時的な貯留機能は認められていたんだ。その機能をより効率よく発揮するために田んぼの落水口に専用の堰板を設置して機能アップさせ、ダムのような洪水調整の役割を持たせたことから、田んぼ+ダムで田んぼダムと呼ぶようになったんだ。そしてその専用の堰板というのが深味長野地区に整備されたんだよ。

なぎ：深味長野地区さ整備したのは機能一体型だよな。

おべ様：そうそう今では各メーカーがさまざまな種類の製品を開発していて、堰板一つで水位調整機能と流出抑制機能を持たせる「機能一体型」、水位調整とは別に流出調整機能をもたせた「機能分離型」というのがある。でも今回はここまでにしよう。なぜって？

なぎ：そったこまけ一事より、製品でも自作でもいいはんで、みんなして流域全体で田んぼダムに取り組むことが大事だからだべ。

おべ様：さすがだね、なぎちゃん。そうみんなで行きついでに機能が発揮できるんだ。



深味長野地区で設置された堰板



様々な種類の排水口が勢揃い